ともがき

発行所
東京都立三田高等学校
青葉会
（同窓会）
港区三田1丁目4番46号
電話（453）1991㈹

就任に当って

会長　五百川　武

私この度、若輩ながら平成二年四月より石田会長に代り、新しく会長の重席に就任を命ぜられた四十一年卒業の五百川武でございます。

同窓会活動については従来から携わっては参りましたもののこの永い歴史と伝統を持つ学園の会の会長には私ごとき時期尚早の感が致します。

ことに石田前会長のなみなみならぬ努力・活動の結集が今日のこの光輝ある躍進を続けて居りますことは皆さん充分ご承知で枚挙にいとまありませんが、あの昨年の創立六十周年の記念行事を他に類例を見ない盛会裡に終了出来ましたこと、参列者一同絶賛羨望の的でございました。これからもこの名声と業績を汚すことなく皆さんと一心同体、より以上の運営発展に努力したいと決心致しております。

具体的には数々あろうかと思いますが、先ず「名簿」の完成、年一回発行の「ともがき」・「同窓会親睦会」の開催等、会員各位の一人一人のご協力を切にお願し努力したいと思います。

"光陰矢の如し"

—60周年祝賀会を主催して—

前会長　石田　弘

待ちに待った「母校六十周年」の祝賀会行事を終え、皆さんそれぞれに感慨深いものがあろうかと思う。私も会長在任十年になんなんとするときに、同窓会の名誉にかけて五十年よりもっともっと盛会で実り多きものであることを念願し乍ら歩いた結果であったが果してどう問われたでしょうか。

行事は従来通り式典は学校側、祝宴は同窓会の担当の下にすすめられ、顧問の石関先生、中村先生、役員の皆さんと毎月の会合を重ね築きあげて来た十年間の成果でした。先ずこの周年行事にむけて同窓生全員の消息が確認できるよう住所録を完成し在校当時のように各自交流が円滑になされるよう「**名簿**」**の完成**をこの記念行事の一環にと取り組まれました。

年一回11月23日の同窓会懇親会と「ともがき」の発行を足場に作業は進められたが、女子卒業生の多い本校の宿命として困難なものがあり今日こうして眼前に見開くことが出来る事で精一ぱいでした。この努力は今後とも着実に続けられねばならぬ事であるから皆さん一人一人のご努力をお願いして止まない。

年一回の同窓会11月23日於母校講堂、集りは年年その増減はあったが遠く北海道・九州から駆せ参じて下さる方々があることには感激であった。また北海道北の果てより「今年は参加出来ないで残念です」がと**手造りの袋物をバザー用にして下さいとご寄贈下さる和田喜ん子さん（12年卒旧太田）更に運営も大変でしょうと会のためにご使下さいと今尾顕子さん（10年卒現篠田）・淳子さん（17年卒）姉妹による各10万円、計20万円のご送金**を受けた時は全く感謝の気持ちで涙することであった。尚、私の29年卒同期会の皆さん全員が毎会お集まりいただいて会を盛り挙げて下さったことと厚くお礼申し上げます。

愈々五十周年以降の総結集された六十周年祝賀行事が始まるが式典総祝賀会場として従来設営されていた体育館が今回は使用出来ず、式典後、直ちに音楽講堂の組み替えには大変な狭狭であった。

来賓、恩師、同窓生多数がご参集いただき「会場狭し」の大変な賑合であった。その盛況ぶりは当日の写真にゆだねます。**母校六十周年祝賀行事バンザイ。**

これを機にここに十年余の永い会長在任を終えさせていただき有がとう御座いました。在任中何かと皆さんのご支援を得て誇り高い学園の同窓会の伝統を益々光輝あらしめ次期会長にバトンタッチ出来ますことを大変嬉しく思います。「光陰矢の如し」とはこのことでしょうか。拙い私の永い歩みに対し皆さんの全幅のご参同を得ましたことを心から厚くお礼申し上げます。次期会長には41年卒五百川武（五百川紙販売株式会社社長）氏がご就任の運びとなっておりますので私同様ご支援ご協力をいただきますようお願い申し上げます。

学び続けること

名誉会長
学校長　依田好雄

青葉会の皆様には益々ご健勝でご活躍のこととお慶び申し上げます。

昨年十月の創立六十周年記念行事では石田会長さんを始め多数の皆様方に大変お世話になりました。おかげさまで、心のこもった感動的な諸行事を行う事ができました。改めて御礼申し上げます。

さて、本校六十一年目も順調に歩みを進めております。生徒達も元気で学習に励んでおります。五月には四年生の修学旅行も無事終りましたし、この「ともがき」が発刊される頃には体育祭も終了しているはずです。

ところで、いま生涯学習の時代といわれ、一生を通して学び続けることの重要性が強調されています。とはいえ、働きながら夜学ぶ生徒達にとっては、最後まで学び通すことは決して容易なことではありません。ものの豊かさは街にあふれ、生徒達の目を、心を奪います。よほどしっかりした目的意識と学ぶ意欲がないと挫折してしまいます。絶えずあたたかく見守り、励ましていきたいと考えています。

皆様方にも、本校の先輩として、時には人生の先輩として折がありましたら是非声をかけ、励ましていただきたいと願っております。

今後ともよろしくお願い申し上げます。

『青葉会』の更なるご発展を祈願して

名誉副会長
教頭　若林明弘

平成元年十月二十九日本校定時制創立六十周年記念式典に引き続いて、青葉会総会そして祝賀会が、青葉会の会員の手で盛大に行われました。来賓でみえた私の教頭仲間が「定時制だけで、こんな会が持てるのか」と感嘆の言葉を述べていましたが、「宜なるかな」と鼻高々に私も感じたものです。校長の代理での夕礼でもそのことに触れ、「創立七十周年の折は、是非ここで皆さんとお逢いしたい」と結びました。青葉会の皆様どうもありがとうございました。

母校は、教職員の地味ではあるが着実で熱心な指導が実を結んできて、